

ビデオアートプログラム

A Window to the World: 世界に開かれた映像という窓

第 25 回：ラリッサ・サンスール 第 26 回：スミルハン・ラディック

新しい映像表現に触れることができる無料プログラム

「A Window to the World：世界に開かれた映像という窓」は、館内の無料スペースで、世界で活躍するアーティストたちによる映像作品を紹介するプログラムです。映像が映し出されるスクリーンを、距離的な隔たりを超えて世界で繰り広げられる試みと私たちとの回路を開く「窓」にたとえ、年間を通して先鋭的な表現を紹介しています。

第 25 回：ラリッサ・サンスール

月面着陸を題材にした SF 映画で表現されるパレスチナ問題

ラリッサ・サンスール（1973 年～）は、東エルサレム出身のアーティストで、パレスチナ問題をモチーフにした作品をいくつも発表してきました。

本作《スペース・エクソダス（出宇宙記）》も、国家としての認定を受けられず、多くの難民を生みだしているパレスチナの惨状を表現しています。この深刻なテーマを、爆撃や廃墟や死傷者といったニュースによくある映像ではなく、月面着陸を題材にした SF 映画からの比喻によって描き出しています。

●上映期間／2011 年 11 月 29 日（火）～2012 年 2 月 5 日（日）

●上映作品／スペース・エクソダス（出宇宙記） 2009 年 カラー、サウンド、5 分 24 秒

ラリッサ・サンスール

1973 年東エルサレム生まれ、ロンドン、コペンハーゲン在住。ロンドン、コペンハーゲン、ニューヨークで美術を学び、映像、写真、本、インターネットなどを用いて作品を発表。第 11 回イスタンブール・ビエンナーレ（2009 年）、リパブル・ビエンナーレ 2010 など多数のグループ展・国際展に参加し、各地で個展も開催する。

第 26 回：スミルハン・ラディック

郷愁あふれる映像で語られる人と空間のフレキシブルな関係

近年注目を集める南米チリの建築シーンで、ひときわユニークな活動を続ける建築家、スミルハン・ラディック。彼が手がけた映像作品は、自身の建築に対する思想を物語のように表したのようになっていきます。子ども時代の思い出や旅の体験、チリの自然に触発された手法や構造についてのアイデアを、古い映像、写真、影絵のようなアニメーションなどと組み合わせ、ノスタルジックな雰囲気の中で、人と空間の関係性を語っています。

●上映期間／2012 年 2 月 7 日（火）～4 月 22 日（日）

●上映作品／オレンジ・ノイズ 2009 年 カラー、サウンド、25 分 2 秒

スミルハン・ラディック

1965 年チリ、サンチャゴ生まれ、同地在住。チリ・カトリック大学、ヴェネチア建築大学に学び、2001 年チリ建築家協会より 35 歳以下の最優秀国内建築家に選出される。2010 年ヴェネチア・ビエンナーレ建築展「建築で人々が出会う」、2011 年東京都現代美術館「建築、アートが作りだす新しい環境-これからの“感じ”」等に出品。



ラリッサ・サンスール
《スペース・エクソダス（出宇宙記）》
2009 年



スミルハン・ラディック
《オレンジ・ノイズ》
2009 年

広島市現代美術館（広報担当：後藤、鈴木）

〒732-0815 広島県広島市南区比治山公園 1-1

TEL/ 082-264-1121（代表）・082-264-1146（直通）

FAX/ 082-264-1198

E-MAIL/ hcmca@hcmca.cf.city.hiroshima.jp